

▶執筆 人権教育課（市役所内線 4012）

子どもが安心して暮らせる社会に

「ケアリーバー」という言葉をご存知でしょうか。社会には虐待や貧困、死別などさまざまな理由で保護者と一緒に暮らせず、児童養護施設や里親など、社会的擁護の下で暮らしている子どもたちがいます。その社会的擁護から離れた子どもや若者を「ケアリーバー」と呼びます。社会的擁護の現状や実態を知る人は少なく、無理解や偏見などにより、ケアリーバーが進学や就職などの際にさまざまな困難に直面しています。

「ケアリーバーという言葉なんて聞いたこともないし、周りにいないので自分には関係ない」と思われる方もいるかもしれません。しかし人権問題を学んだり考えたりするとき、決して他人事とせず自分事として受け止め、向き合う姿勢が大切であるといわれています。一人一人がこの問題に向き合うことで、子どもをはじめ、誰もが尊重されるまちづくりにつながるの

ではないでしょうか。

今年度、兵庫県と公益財団法人兵庫県人権啓発協会は「社会におけるこどもの人権～こどもが安心して暮らせる社会の実現をめざして～」をテーマに、人権啓発映像教材DVD「あなたのいる庭（出演＝南野陽子さんほか）」を制作しました。この作品には、児童養護施設で暮らす子どもやケアリーバーなどが描かれています。

地域や職場などの皆さんで視聴し、社会的養護下の子どもやケアリーバーについて学び、自分事として考える機会としていただければうれしいです。

人権啓発DVDなどの貸出し（無料）については人権教育課ホームページ▶



第70番札所の磨崖仏



第68番札所の磨崖仏



高松山四国八十八箇所霊場の2つの札所に、市内で唯一の磨崖仏があります。この霊場は長明寺の塔頭寺院である仲之坊の住職教順師が中心となり、文政7（1824）年に開かれました。師は本四国八十八箇所を度々順拝して霊場間の距離を歩幅で計測し、それに基づいて山林を切り開き、本四国八十八箇所を模した霊場を造りました。磨崖仏は、第六十八番札所には左側に阿弥陀如来像、右側に弘法大師像が彫られ、第七十番札所には正面に祠が架けられ、左側に馬頭観音像と、右側に弘法大師像が彫られています。市内で最大の巡拝路を有するこの霊場は、ハイキングコースとしても親しまれています。

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪 66

高松山四国八十八箇所霊場の磨崖仏（高松町長明寺）

▼問合せ 郷土資料館（☎23-5992）

市長からの手紙

— 西脇を元気に!! —

134



今大会は全国28府県から男女合わせて120チームが出場

地域の皆さんの「思い」
17回目の西脇多可新人高校駅伝競走大会が先月16日に開催されました。今年、コロナ禍で4年ぶりに再開した昨年を上回るチームが出場し、大勢の観客から温かい声援が送られました。無事に開催できましたのは、大会を支えてくださった実行委員会や西脇市・多可町の陸上競技協会、警察や自衛隊、地域の企業・団体をはじめ、ボランティアの方々、炊き出しや出店をいただいた地域の皆様のおかげであると感謝しております。



西脇市長 片山象三

この大会は、全国高校駅伝大会で大活躍する西脇工業高校を誇りに思う地域の方々の「思い」、西脇市と多可町の陸上競技協会をはじめ関係の方々の「思い」、8度の全国優勝を果たされた当時の監督・渡辺公二先生の功績をたたえる「思い」などがシナジー効果をもたらし、深い関わりを持つ西脇市・多可町間に公認コースが設けられ、平成22年の初開催につながったと伺っています。このように地域の皆さまの力が結集され、全国規模の大会がこの地域で開催できることは大変栄誉なことです。たすきをなびかせ力走する選手の姿を見ると、先人が導いてくださった素晴らしい大会を次代にしっかりとつなごう。そして、これからもこの地域から全国・世界で活躍する選手が育ち、その姿を披露し続けてくれることを期待したいと、思いを強くしました。

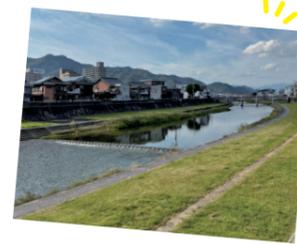
みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

「まちなかの活性化」を目指して

～市民提案型まちづくり事業採択団体の紹介～

「わいわいまちなか」は、まちなかの自然空間（杉原川の河川敷）でのマルシェイベントを開催し、交流活動を推進することでまちなかの活性化を目指しています。

3月に開催するマルシェには、まちづくり活動をしている市民団体や地域住民など約30店舗が集まり、参加者に西脇市の人の温かさ、自然空間、地域性などに気付いてもらうきっかけとします。まちなかの新しい交流の場にぜひ遊びにきてください。



青空マルシェ▶とき 3月2日（日）午前10時～午後3時（小雨決行／雨天時は9日（日））
▶ところ 蓬萊橋下河川敷▶
問合せ わいわいまちなか（☎090-3033-9634）

西脇の自然 612

アテツマンサク

まんさく科



35年ほど昔、春になると和布町や板波町の山一面を黄色一色に染めるようにマンサクの花が咲きました。中区や加美区でも所々で山一面を覆うように咲いたものです。その中にアテツマンサクも紛れて咲いていました。

アテツマンサクは牧野富太郎博士が岡山県阿哲郡で発見し、郡の名前を取ってアテツマンサクと名付けられたマンサクの変種です。よく見ると両者はがく片の色が違うだけで、遠目には区別がつかないくらいよく似た植物です。和布町や板波町の山でも両者が混ざって見られましたが、今ではすっかり減ってしまいました。

春が来たら散歩のついでに観察してみてください。他にも発見があるかもしれません。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】